

トピック 先祖を敬う庶民の民俗文化 …お盆もハロウィンも

伝統を次世代に 大盆踊り会 初開催 保存会「村を一つに」 (信濃毎日新聞 2013/8/3より)

ニュース解説 松川村は、男性の平均寿命が全国で最も長いことで有名になった。村長によると「農業などの仕事を持って生活している高齢者が多いためではないか」と説明している。その松川村では、時代とともに住民の暮らしと盆踊りが疎遠になり、保存会員も減少しているという悩みがある。記事からは先祖といっしょに故郷の美しい山河を愛でるとともに、コミュニティとしての一体感を取りもどそうとする人々の意志と努力が伝わってくる。

「盆」は仏教の盂蘭盆会が原点で、旧暦の7月15日ごろ、それぞれの「家」の先祖代々の霊を祀り、「家」の安泰と子孫繁栄を祈願して行われる行事が庶民に広がったとされる。盆の時期は先祖の魂が戻ってくるとともに無縁の亡霊もやってくると考えられ、家の中では先祖だけを迎え、静かに祀り、外と区別するという考えがあった。同様の先祖崇拜の行事は東アジアや東南アジアに広く見られるほか、ハロウィンも先祖や死者の霊が家族を訪ねてくるという言い伝えが起源である。

折口信夫「盆踊りの話」(『折口信夫全集』1955年、中央公論社)によると、出雲のお国の道行き芸としての念仏踊りや小唄踊りが盆の踊りの根本とされている。しかし、先祖を供養する儀式が、次第に派手になり、また娯楽性が強くなってきたため、盆飾りや盆踊りは幾度となく自粛令が出されている。この伝統的な盆踊りとは別に「東京音頭」に代表される戦後の民謡踊りや「ドラえもん音頭」など子ども向けにつくられた踊りがよく踊られる。現在盆踊りそのものは必ずしも仏教と直結しているわけではない。安曇節などの盆踊りや地域の伝統芸能の大半は、代々口と手振り身振りで伝えられ、現在まで受け継がれている。

授業での活用 多くの生徒が盆踊りで踊ったり、出店で金魚すくいをしたり、綿あめを食べたりした楽しい思い出があるだろう。それら盆踊りにまつわる思い出とともに、地元の盆踊りがどのように伝承されてきたのか、また実施のために必要な準備・作業、人などを思い起こしたり、聞き取り調査をするなどして確かめさせたい。

一方、上の資料図(『中学校社会科地図』(以下、地図帳) p.101①)には高山祭と諏訪の御柱祭のイラスト



『中学校社会科地図』 p.101①

トが描かれている。これら全国の「祭り」の多くは宮中や貴族、神社等を中心として広まった行事で、豊作の祈願や実りへの感謝、国家安泰の祈願を発祥とするものが多く、「家」を核とした年中行事や盆踊りなどは区別できる。全国にどのような祭りがあるか、地図帳のそれぞれの地方の資料図を見て確かめさせたい。

- ①『社会科 中学生の公民』(以下、教科書) p.18の「身のまわりの年中行事」の図を見て、行事について問うた課題に取り組み、同時にイラストの中で先祖を含む家や家族を中心とした年中行事を挙げる。
- ②教科書 p.18「伝統に根ざす現代」を読む。
- ③盆の行事の意味や由来を調べ、理解する(教科書p.19「チェック&トライ」)。離れ離れに暮らしている家族や親類、知人がお盆に顔を合わせ、墓参りなどを通して自己の存在を先祖とのつながりのなかで認識するとともに、会食したり、盆踊り等で地域との連帯感、帰属意識を高め、時間的、空間的に自分の居場所(アイデンティティ)を確認できる機会となっていることをとらえさせる。
- ④盆踊りは、これから残っていくものなのか、残すためにはどうしたらいいのか考え、意見を発表し合う(教科書p.23「チェック&トライ」)。
- ⑤教科書p.22~23「私たちが地域社会でできること」を読む。

◎ 新しい技術や文明を取り入れながら、同時に変わらない価値を大切に次の世代に伝えることで、家や家族、地域社会は持続発展していくことを理解させたい。

(元全国中学校地理教育研究会会長 宇野 彰人)